



城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 173名
○真剣に学ぶ生徒	2年 155名
○健康な生徒	3年 176名
	特別支援学級 6名
	全校生徒数 510名

春二態

校長 玉崎 芳行

先月22日気象庁は、関東地方で、昨年に比べ十五日早い春一番が吹いたと発表した。春が来る。弥生三月、卯月四月。同じ“春”なのに、私には、同じ“春”と感じられない。三月と四月、それぞれがまとう空気が異なるように感じられる。言い換えれば、「惜別（せきべつ）の三月」「邂逅（かいこう）の四月」と言えようか。

その季節を迎えようとしている未来ある君だからこそ、あえて苦言を呈す。人として生きていく上で、大切なことを、もっと真剣に、もっと深く、もっと広く自らに問い続けながら、自らの人生を歩んでほしい。

アメリカの哲学者であるロバート・フルガム氏は、自身の著書で次のように記している。私たちは、忘れてしまっただけではないだろうか。

「…人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだらうか。

何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。使ったものはかならずもとのところに戻すこと。ちらかしたら自分で後片付けをすること。人のものに手を出さないこと。誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。食事の前には手を洗うこと。トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。釣り合いの取れた生活をする—毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと。毎日かならず昼寝をすること。おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。…」

(引用「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」〔池央耿＝訳〕より一部抜粋)

“人は、出会うべき時に、出会うべき場所で、出会うべき人と出会う。”私は、そう感じながら、人生を紡いできた。良き出会いは、互いを磨き、高め、それぞれの人生に彩りと実りをもたらすものとなるのではないだろうか。未来ある君よ、今までの出会いに思いを馳せるとともに、新しい出会いを大切にしたいと切に願う。

人と別れ、人と出会う春が、桜のたよりとともにやってくる。